

平成26年度事務事業評価シート

取組みコード 41512

区分	事務事業	担当課	生涯学習課	作成日	平成26年度
事業名	子ども会育成事業費	開始年度	不明	予算科目	9.4.2.6.1

1. 事業の概要

総合計画での位置づけ					
部	第4部 豊かな人間性を育む文化のまちづくり	章	第1章 生涯を通じて学ぶ体制づくり		
節	第5節 青少年の健全育成	基本施策	1 青少年活動の推進		
取組みの基本方向	(2)子ども会や青少年育成会活動のより効果的な支援をはかり、地域での各種行事への参加促進など、地域の幅広い年齢層の人たちとの交流を支援します。				
根拠法令等					
目的 (誰・何を対象に、何のために)	子どもたちが地域の中で健全に育つ環境づくりのため				
内容・方法 (何を行っているのか)	・愛川町子ども会連絡協議会(愛子連)への補助金交付及び助言指導等の支援 ※愛子連の活動:小学校区ごとの地域の方々と交流事業「ふれあいレクリエーション」実施、ジュニアリーダーとの連携(リーダーから子ども会活動への支援を受ける)、町内の小学生を対象とした研修会の実施等 ・子どもたちの安全を図るために設置されている、「こども110番の家」の設置者への災害補償保険料負担				

2. 指標(事業の成果・活動内容等を数字で表します)

本事業が属する総合計画の節の成果指標	指標名		平成21年度	平成28年度			
		青少年の健全育成について満足と感じる住民の割合		33.5%	39%		
	子ども会加入率		55.8%	60%			
(A) 総合計画の節の目標を達成するため本事業に求められる成果	子ども会のより効果的な支援を図り、地域での各種行事へ参加してもらう。						
(A)の成果をあげられているか測るための指標(成果指標)	増減	指標の説明	項目	基準年度(H23年度)	平成24年度	平成25年度	平成26年度
行事参加者数	増	子ども会連絡協議会開催行事による参加人数	計画値		2,500.0	2,500.0	2,500.0
			実績値	2,444.0	2,581.0	2,361.0	
			達成度※自動計算		103.2	94.4	0.0
(B) 成果指標の目標を達成するため本事業において町が行う活動	愛子連への職員派遣						
(B)の活動状況を測るための指標(活動指標)	増減	指標の説明	項目		平成24年度	平成25年度	平成26年度
愛子連会議への職員派遣回数	増	愛子連会議への職員派遣回数	計画値		4.0	4.0	4.0
			実績値		4.0	4.0	
			達成度※自動計算		100.0	100.0	0.0

※ 増減欄は、指標の値について、増加が望ましい場合に「増」、減少が望ましい場合に「減」を記入する。

3. 事業費の推移と財源内訳

(E) 平均人件費(円/年) 8,300,000

年度	基準年度(決算)(H23年度)	平成24年度(決算)	平成25年度(決算見込)	平成26年度(予算)
(A) 事業費(円)	944,600	561,382	1,160,743	796,000
(B) 概算職員数(人)	0.100	0.100	0.100	0.100
(C) = (B) × (E) 人件費(円) ※自動計算	830,000	830,000	830,000	830,000
(D) = (A) + (C) 総事業費(円) ※自動計算	1,774,600	1,391,382	1,990,743	1,626,000
単位当たりコスト ※自動計算	726.1	539.1	843.2	
財源内訳(円)	特定財源			
	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他			
一般財源 ※自動計算	1,774,600	1,391,382	1,990,743	1,626,000

4. 事業の項目別評価(分析)

項目	判定基準	判定 ※一部自動判定	評価 ※自動判定
妥当性 <small>(公費を投入して実施することが妥当な事業か)</small>	法令等で義務付けられた事業である。		A
	民間サービスで同様の事業は実施されていない。市場原理に委ねることができない。	○	
	国や県において同種類の事業が実施されていない。	○	
	事業開始時から事業目的や町民のニーズの変化がない。		
	事業・サービスの提供時間帯及び場所は公平に提供されている。	○	
	受益に応じた負担は適正である。	○	
	事業の実施による効果が不特定多数の人に広く及ぶ性質である。	○	
	町民の日常生活に必要な事業である。	○	
上記のいずれにも当てはまらない。			
有効性 <small>(基準年と比較して成果が上がっているか)</small>	成果指標について平成25年度の目標を達成している	×	C
	基準年度と比較して成果が向上している	×	
効率性 <small>(なるべく費用をかけずに成果を上げているか)</small>	基準年度と比較して費用の縮減ができている (費用の縮減率が成果の向上率以上か)	費用増、成果ダウン	C
有用性 <small>(施策の成果指標の目標達成に貢献しているか)</small>	総合計画の節の目標達成のための本事業の効果	直接的	A
	総合計画の節内での本事業の優先順位	高い	
総合評価 ※自動判定		改善すべき点がある	

5. 特記事項

平成24年度については、愛子連への補助対象経費のうち安全会保険料の支払い時期が平成25年度にずれたことで、例年より300千円程度少なくなっている。

6. 自己評価(担当課)

評価結果	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 再構築	<input type="checkbox"/> 廃止
理由	町子ども会連絡協議会活動の活性化のために事業を実施することは、本町の青少年の健全育成には欠かせないものであると考えるため。					
今後の方向性	今後も役員会や主催する事業には担当課として関わり、より良い内容で事業が展開されるよう指導助言を行う。					

7. 1次評価(庁内行政評価委員会)

評価結果	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 再構築	<input type="checkbox"/> 廃止
今後の方向性に係る意見等	児童数の減少や育成環境の変化等、子ども会の活動をめぐる環境は大きく変化しており、子ども会加入率や参加者数の単純な増加は望めない状況にある。こうしたことから、子ども会の役割を見つめなおし、町としてどのような支援が必要か、検討すべきである。					

8. 2次評価(外部評価:行政改革推進委員会)

評価結果	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 再構築	<input type="checkbox"/> 廃止
今後の方向性に係る意見等	時代の趨勢の中、子ども会加入率が減少する状況においても、創意工夫などしながら将来に向けて改善をしていく必要がある。					

9. 2次評価(実施のない場合は1次評価)を踏まえた対応案(担当課)

地域の子ども会活動が充実するために、愛川町子ども会連絡協議会(愛子連)の理事の役割を明確にし、事業への積極的な関わりが必要となる。そのために、平成27年度には、愛子連理事会において自主研修会を開催し、「地域の子ども会との繋がり」「子ども会を活発にするための支援」などを話し合っていけるよう支援する。

10. 町の最終方針(行政改革推進本部会議)

評価結果	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 再構築	<input type="checkbox"/> 廃止
理由・改善方針	所管課の方向性のとおり、愛子連が地域の子ども会活動の活性化に積極的に関わることができるよう、愛子連理事の研修等の活動を支援するものとする。					